

歯肉炎をターゲットにした健康教育媒体 「Make a Smile」の教育効果

○ 柏木伸一郎¹⁾、松岡奈保子¹⁾、山本未陶^{1,2)}、筒井昭仁^{1,2)}
西本美恵子¹⁾、岩井梢¹⁾、中村譲治¹⁾、岩男好恵¹⁾、山本和宏¹⁾

1) NPO 法人ウェルビーイング、2) 福岡歯科大学口腔保健学講座

【背景】乳幼児から学童、生徒と成長するにつれて歯科における健康問題は、う蝕のみならず、歯肉炎が増加する。この時期は、ちょうど思春期にあたるため、思春期の特徴を考慮した健康教育を実施することが必要である。

【目的及び方法】NPO 法人ウェルビーイングは、思春期を対象に歯肉炎をターゲットとした健康教育媒体「Make a Smile」の開発に取り組んだ。コンセプトとしては、

- 1) 自分自身の問題として、捉えることが出来る。
- 2) 自己診断が出来るようになる。
- 3) 対話形式で、興味を引くことが出来る。
- 4) 解決法を自分で考えることが出来る。



「Make a Smile 思春期編」(図1)

製作した歯肉炎予防のための健康教育ツール「Make a Smile」(図1)を使い、歯科医院来院者60名(平均年齢11.6±2.3歳)に、歯肉炎をターゲットとした健康教育を行った。その後、来院者に歯肉炎の理解や自己診断および自己決定出来るか等を、自記式質問紙を使って調査した。また、健康教育を行った歯科医療従事者に対して、来院者の反応や「Make a Smile」を使った感想を、自記式質問紙で調査した。質

的データは、KJ法を使って分類し、コード化を行った。

【結果】来院者は、教育の効果として、「自分の歯肉の状態がわかった」「歯肉炎の原因、症状を学んだ」「歯肉炎の予防法がわかった」というコードが抽出された。

また歯科医療従事者は、「説明のしやすさ」「対話形式によるコミュニケーションの取りやすさ」等のコードが抽出された。

調査結果から来院者の気づきが確認され、健康教育媒体として有効であることを確認した。しかし、思春期になると歯科の定期健診を中断する者も多くなる。そのため、診療室に来院しない生徒への取り組みも必要であると考えられる。今後は、学校などの集団の場で、今回開発した健康教育媒体を応用する方法を検討したい。

【ラウンドテーブルでの検討課題】

- 1) 今回歯科医院の来院者を(個人)を対象に媒体を開発したが、小学校高学年から中学校の集団での健康教育の現場での応用は可能か。
- 2) 学校等集団を対象とした健康教育を、今後どのように進めたらいいか。

歯肉炎の予防に取り組んでいる方はもちろん、学校現場の方、健康教育手法の開発に取り組んでいる方、の参加をお願いします。

【連絡先】

柏木伸一郎 (NPO 法人ウェルビーイング)
〒810-0004 福岡市中央区渡辺通 4-1-36
柏木小児歯科医院

E-mail: s-k521@viola.ocn.ne.jp